

7. 旧北上川上流のルート、拠点、ポイント

旧北上川上流の位置



7-1 旧北上川上流のポイント

- 右岸側の堤防上の道は、通勤通学、サイクリング、ウォーキングなど様々な活用に活用されている。
- 堤防上からは雄大な水辺の風景を望むことができ、良いロケーション。
- 大橋地区の広域消防署があるところでは、震災前は毎年石巻川開き祭りの花火大会が開催される場所であり、毎年多くの観客が訪れていた。
- 広い河川敷があり、釣り人や子供たちの遊び場として利用が図られている。
- 左岸側の堤防は、震災による沈下分の堤防嵩上げが計画されている。
- 左岸側は一部無堤区間であったが、震災を踏まえて新たな堤防が整備される。

左岸堤防から見る景観



真野川合流部



様々な利用されている堤防上の道



震災前には川開き祭りの準備をする孫兵衛船の姿も見られた。

左岸堤防から見た市街地



左岸堤防



震災前は川開き花火大会で利用されていた階段護岸



運河交流館付近



左岸上流の石巻専修大学と桜並木



ルート
④
ルートテーマ

旧北上川の風と風景を楽しむ
「川の風を楽しむルート」

- ルート方向性
- 川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
 - 堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済みであり、移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
 - 旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

水辺の現況

- 石巻大橋から石井閘門までの堤防上の通路は、サイクリングや通勤通学、散歩、生活道路として利活用されている。
- 震災により地盤が沈下しており、沈下分だけ堤防を嵩上げる予定である。
- 特に、このルートから見る川は、水面の広がりを感じる素晴らしい風景を楽しむことができる(⇒途中で休憩するためのベンチ設置を検討)。
- 河川敷では、子供たちが遊んでいたり釣りを楽しんでいる人も見かけられ、レジャーとしての利活用が進んでいる。



サイクリングでの水辺散策



堤防上は安全な通学路



散策路は生活道路としても利用



河川敷は子供たちの遊び場



釣りを楽しんでいる人



ウォーキングや散歩を楽しむ人も多い



散策路からは鉄橋を通る電車(JR石巻線)が眺められる



散策路からは雄大な旧北上川を望められる対岸は真野川水門

利活用方策

- 散策路の維持管理のため、町内会などにより水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や堤防の植栽管理を推進。
- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。



河川清掃イメージ

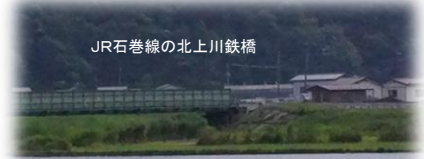


ゆったり水辺を眺められる水辺のベンチのイメージ



環境学習のイメージ(生物調査)

- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。
- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。



JR石巻線の北上川鉄橋

北上川鉄橋付近の河川敷 今後の利活用が期待される

向実
け現
てに

- 国で管理する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画等、具体化を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード
「スポーツと学びのルート」

ルート方向性

- 対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散策できるルート
(心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散策、サイクリングを楽しむ)
- 石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
- サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫(距離標や案内板)
- 一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫(釣りやボート等)

水辺の現況

- 石巻専修大学や石巻商業高校、総合運動公園が隣接。
- 石巻専修大学では漕艇部やカヌー一部の利用のため浮き桟橋を設置、サークル活動が行われており、大学構内には約650本もの桜が植えられており、隠れた桜の名所になっている。
- 近年、カヌー団体による旧北上川のカヌー利用(カヌー教室・カヌートレッキング等)が行われている。
- 周辺住民の日常の散策路として利用されている。



川沿いにある石巻専修大学の漕艇



旧北上川の浮き桟橋とカヌー利用



利活用方策

- 総合運動公園を出発点とし、開放的な空間の中で風を切って走るマラソン大会や、親子ウォークラリー等のイベントを検討



マラソン大会のイメージ



ウォークラリーのイメージ

- 石巻専修大学と連携しカヌーや大学構内の桜並木の利活用方策を検討。
- カヌー発着所を活用した、カヌー教室や水辺・川と親しむイベント等の開催を検討。



カヌー教室イメージ

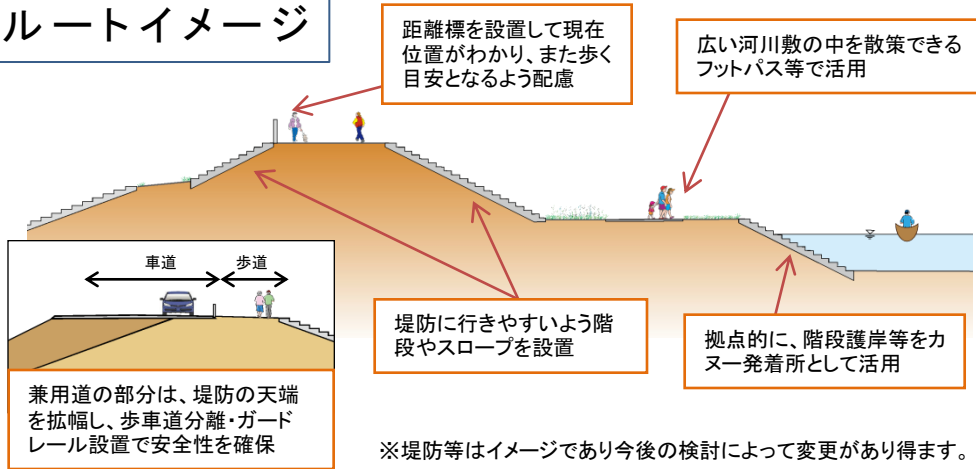
- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会等により水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進。



河川清掃イメージ

- 子どもたちが水辺を散策しながら旧北上川や水辺の環境などを学べるよう検討(散策イベントや看板など)
- 広域的なネットワークの移動を容易にするため、堤防をサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)
- 対岸のルートや拠点とのつながりを確保するため、イベント等において対岸との渡しの再現について検討。

ルートイメージ



向
実
け
現
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や利活用について、具体化を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

拠点
F
拠点テーマ

水辺のレジャーも楽しめる防災拠点
「旧北上川水辺広場」

拠点
方向性

- 市街地を流れる旧北上川沿いとして、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントとして拠点を形成。また洪水時は防災拠点としての機能も併せる。
- 拠点では、水辺を望みながら子どもたちが思いっきり走り回れる原っぱ、多様な年齢層の様々な活動の場、プロムナードの休憩スポットとして機能。

水辺の現況

- 津波による被害は比較的小さく、川沿いには住宅等が立地し、日常の散歩等として利用されている。
- 堤防の住宅側は、約6haもの広大な用地があり、現在は仮設住宅として利用されている。
- 堤防の河川側は、階段が整備されており、震災前には川開き祭りの花火大会会場として多くの人が集まっていた。



堤防の川側。階段が整備され、河川をゆっくり見ることができる



水際は広場やベンチが整備され、堤防天端は日常の散歩路として利用されている

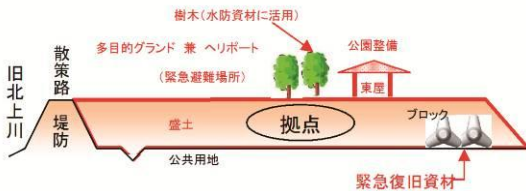


拠点箇所は現在仮設住宅が立地している

拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時においては、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井閘門までの散歩路(堤防上)では木陰が無いため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。

河川防災拠点整備イメージ



▼ 大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

洪水等の緊急時には

- 水防情報の受信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防待機所
- ヘリポートによる緊急輸送

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々とのコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



利活用方策

- 多目的グラウンド(芝生広場)では、スケートボードやゲートボール場として活用するなど多様な年齢層に水辺での活動に利用。



スケートボードのパーチ



ゲートボール

多目的広場の利活用イメージ

- オープンスペースを利用して、各種イベント等に活用。

実現に向けて

- 国の防災ステーション等整備事業と調整し、プロムナード計画に基づく施設設置や利活用について具体化を検討。
- 拠点計画地は、現在仮設住宅として活用されていることから、将来的なまちづくりとの調整を図りつつ検討していく。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルール、管理区分等を調整していく。